

学校評議員会議事録

日 時	平成 2 9 年 7 月 1 3 日 (木) 1 0 時 0 0 分 ～ 1 2 時 0 0 分	
会 場	北海道白糠養護学校 会議室	
出 席 者	学校評議員 5 名	学校側 3 名
出席者名	小 淵 隆 司 山 田 誠 下 重 哲 也 上 西 春 美 中 岡 美 緒	菅 原 康 之 越 田 淳 児 玉 崇 志
校長が意見を求めた事項		内 容
平成 29 年度学校経営方針	今年度の重点目標 ○児童生徒の内なる力の実態把握 感覚や運動の使い方から児童生徒の意思的行動をよみとる教育力を高める ○児童生徒の将来を見据えたキャリア教育の推進 一人一人の児童生徒が有能感をもって社会性を育むための教育力を高める ○教師の高い専門性 次期学習指導要領の改訂を見据えた教育課程の改善と検討を行うとともに、児童生徒一人一人の実態に応じた教科学習力高める実践を行う。	
意見聴取 地域と共にある学校の在り方について	・本校を取り巻く公共交通機関の存続は厳しいものがあるが、代替の交通機関の検討も含め地域や関係機関で協議していく必要がある。 ・各学校の特別支援学級について、個別の指導計画や支援計画で指導は引き継ぐことになっているが、現実的には引継がうまくいかない事も多い。特別支援学級担当者向けの研修の場をつくるなど、地域の特別支援教育に関するネットワークが必要となっているのではないか。 また、普通学級の授業から特別支援学級の授業へフィードバックできることもあると思うので、双方向の交流ができると思う。 ・他の学校との交流及び共同学習の結果、本校の生徒と地域の子どもが友達になれたなど、交流の場が非常に重要だと感じた。 ・居住地域で特別支援教育を受けられる学校が全道的に求められていると思う。 ・本校の特殊性等、色々事情はあると思うが、児童生徒が減少する傾向は、地域として少し不安である。	
教育活動について	・児童生徒の主体的な活動の中で、「集団の中の個（自分）」という場面をどのようにつくっていくのかが重要だと感じている。 ・教師が主導するのではなく、子ども自身が主体的に選択する事を待つ授業が必要だと思う。	
上記のとおり会議を開催した。		
平成 2 9 年 7 月 1 3 日 北海道白糠養護学校長 菅 原 康 之		

*別の様式により意見聴取の内容を整理している場合には、それを添付し保管すること。

*配付資料などを添付し保管すること。